

4 1人1台端末の利活用に係る計画

(1) 1人1台端末をはじめとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

※1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワーク等を通じて実現を目指す学びの姿を記載する。

ICT 環境において実現を目指す小中学校の学びの姿は、情報教育を中心に据え、生徒たちが情報の取捨選択やデジタルスキルを磨く環境を整備します。プログラミングや情報リテラシーを基盤とした授業が展開され、デジタルツールを活かした創造的な学習が進むことで、生徒たちは問題解決力や発想力を養います。オンライン学習プラットフォームや協働ツールを活用し、生徒たちが時空を超えて共同で学び、情報を共有できるようなコミュニティを築きます。データ分析や AI を活用して教育効果を評価し、調整することで、効果的な情報教育を実現します。これにより、未来の社会で必要な情報活用能力を身につけ、グローバルな競争社会に適応できる教育環境を整備します。

(2) GIGA 第1期の総括

※令和5年度までの間に GIGA スクール構想の実現に向けて実施してきた端末と通信ネットワークの整備や、これらを活用した学びの実践のための取組等の総括を行い、その結果を記載するとともに、明かになった課題については、その解決策とともに記載すること。

(課題及び解決策としては、端末、通信ネットワーク、周辺環境等のハード面に係るもののほか、その利活用方策に係るものが想定される。)

小中学校の児童生徒に1人1台端末を整備したことにより、小学校はPC教室を廃止し、教室での活用に力を入れてきた。校務支援ソフトも導入時はトラブルが多くブラッシュアップに苦労したが現在は安定してきて、勤務時間の縮減に貢献している。

1人1台端末の導入で活用が一気に進むと思われたが、中学校での活用が思ったより進んでいない。

GIGA 第2期の導入にあたって、情報活用能力の育成を前面に出した授業改善を小中学校に指導していく。小中学校におけるICTに関する研究部会を通じ活用促進を図っていく。また、ICT支援員を派遣し授業支援等を行っていく。

(3) 1人1台端末の利活用方策

○「1人1台端末の積極的活用」

	項 目（課 題）	対 策
①	デジタル教科書を実践的に活用している学校の率を100%	実証事業による学習者用デジタル教科書を活用
②	情報通信技術支援員（ICT 支援員）の配置	小中学校全ての学校に月2回、1名のICT支援員を配置
③		
④		
①		
⑥		
⑦		
⑧		
⑨		
⑩		

○「個別最適・協働的な学びの充実」

	項 目（課 題）	対 策
①	児童生徒が自分で調べる場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率を100%	小中学校における教育研究の課題解決等を目的とした教育研究協議会により、ICT活用の効果的かつ個別最適・協働的な学びの充実を行う為の研修等を行う。
②	児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面において1人1台端末を週1回以上使用させている学校の率を80%	
③		
④		
①		
②		
③		
⑧		
⑨		
⑩		

○「学びの保障」

	項 目（課 題）	対 策
①	希望する不登校児童生徒への授業配信を実施している学校の率を100%	希望する児童生徒への配信は必ず実施する通知を発出する。所属教室の配信からスタートして、特別教室や体育の授業での授業配信をR6年度末までにすべての学校で可能な状態にする。
②		
③		
④		